

## 関孝和によって日本の数学（和算）が発達した

中国から「算学啓蒙」(1299) や「算法統宗」(1593) などの数学書が入ってきたり、寛永18年版の塵劫記に遺題とって解答を示さない問題が出されたりして、数学を研究する人々が次第に多くなってきました。

また、<sup>テンザンジュツ</sup>点竄術とって日本式の代数が考案されました。



関 孝和 (?—1708)

$$a - b \text{ は } \begin{array}{l} | \text{ 甲} \\ + \text{ 乙} \end{array}$$

関孝和は日本のニュートンといわれるほどの数学の大家で、関流数学の基礎を作り、この頃から和算は急速に進歩していきました。関孝和の括要算法には、

$$-111,412x^{16} + 1,141,120x^{14} - 25,346,048x^{12} + 19,914,752x^{10}$$

$$-6,223,360x^8 + 792,064x^6 - 38,080x^4 + 544x^2 - 1 = 0$$

の方程式を解いて

$$x = 2.674763752 \text{ 太強}$$

と答えを出していますから、計算力も抜群でした。

